

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493200206	事業の開始年月日	平成21年10月1日
		指定年月日	平成21年10月1日
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター横浜鶴ヶ峰		
所在地	(〒241-0011)		
	横浜市旭区西川島町82-14		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成28年10月5日	評価結果 市町村受理日	平成29年1月5日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>緑が多く閑静な住宅街の中にホームが建っています。落ち着いた環境に囲まれ近隣には公園が多くあります。公園には季節毎に花が咲き、それを楽しみにされている方もいらっしゃいます。</p> <p>年間通してボランティアの方々が、来訪され、利用者様と楽しく過ごされています。</p> <p>週一回詩吟、月1回のお茶会を行い、先生に教わりながら充実した時間を過ごされています。</p>
--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成28年10月26日	評価機関 評価決定日	平成28年12月20日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所の概要】</b> この事業所は、相鉄線鶴ヶ峰駅から歩いて15分ほどの場所に位置し、緑の多い閑静な住宅街にある。近隣には、2か所の公園もあり、散歩コースを用意して利用者の状況に応じて、出掛けている。もともと別法人の事業所であったが、当法人が引き継ぎ、運営をしている。前法人時代を含めると開設からは13年を経ている。法人は介護施設などを全国規模で展開している。法人の職場支援として、手薄な職員体制のサポートを行っている。顧客アンケートの実施、防災備品の確保なども法人からのバックアップがある。</p> <p><b>【理念に基づく支援】</b> 事業所の理念は4年前に勉強会を行い、職員全員が言葉を考え、話し合っ、それぞれの思いをこめて作られた。「人生の先輩として尊重し、一人ひとりの心に耳を傾け、信頼関係を構築し、幸せな生活を過ごせるように」との理念の下、職員は、優しさと思いやりをもって支援にあたっている。毎月3時間の会議の中で、研修やカンファレンスを行って研鑽に努めている。</p> <p><b>【事業所間の連携】</b> 徒歩圏内の別法人グループホームと連携し、利用者同士の交流を行っている。今年度はフラダンス教室に出向いたり、相手のグループホーム利用者をマンドリンの演奏会に招待している。事業所連絡会で職員の交換研修を行い、他法人の良いところを参考にしている。</p>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ニチイケアセンター横浜鶴ヶ峰
ユニット名	万寿

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様を人生の先輩として尊重する。信頼関係を構築し、優しさと思いやりの気持ちを込めて支援することにより質の高い介護サービスを提供いたします。	事業所の理念は4年前に理念についての勉強会を行い、職員それぞれの思いを一つの文章にまとめたものである。質の高いサービスの提供をうたっている。社是と事業所理念は申し送り時に唱和している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加させていただく。消防訓練の時には近隣の方々に協力をいただいております。近隣のグループホームとの交流もあります。	町内会に加入し、どんと焼きや盆踊りなどの行事に利用者と共に参加している。近隣の中学校生徒の体験学習を受け入れている。他法人のグループホームと職員交換研修や利用者訪問等で連携をしている。詩吟や茶道のボランティアが定期的に訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケアプラザに行事に参加させていただけるようお願いしています。支援について理解と協力していただけるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を実施しています。利用者様、ご家族、地域の方々に参加していただき、皆様の意見をサービスに反映しています。	2か月ごとに利用者、利用者家族、町内会役員、行政、地域包括支援センター職員が参加して行われている。地域とはハザードマップの共有や行事についての意見交換をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて市町村の方に参加いただいております。定期的にホームに来訪されて協力関係を築いております。	毎年、管理者は区の窓口へ挨拶に行っている。行事の連絡や利用者の要介護認定更新申請を届けに窓口に向くこともある。保健所には「ニチイ祭り」の出し物についての許可を得たり相談したりしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のない職場作り等のポスターの掲示をしています。指示内容をスタッフが理解し、会議等で自分達のケアを振り返っています。	事業所内にポスターを掲示し、身体拘束をしない取り組みを周知している。今年度は法人から講師を呼んで研修を行った。法人のマニュアルをもとに事例を挙げて指導している。日中玄関は開錠し、各ユニットは施錠している。利用者が出たい素振りをしているときは散歩に同行する。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様に対するケアの確認、情報の共有、意見を出し合うことで虐待防止に努めております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所にて研修を行い、権利擁護についての理解を深める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には家族と一つ一つ確認しながら納得がいくまで十分に話し合い同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人が実施している家族向けのアンケートを参考にする。意見、感想を参考にして運営に反映させている。	法人が毎年行う「顧客満足度調査」の結果をもとに、改善に取り組んでいる。「ニチイ祭り」の開催時期について検討した。サービス担当者会議に家族が出席する際、意見を聞いている。家族交流会を催し、意見を聞くこともある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を定期的に行っている。個々のスタッフの意見を聞き、運営に反映させている。	ユニット会議、合同会議、カンファレンスと研修の3部に分け、毎月3時間の会議を開催している。申し送りや連絡ノートで課題を出し、職員全体の話し合いで解決を目指している。議事録は全員に配布している。薬の対応方法や入浴時間などの業務改善を行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内にキャリアアップの制度があり、昇給の機会を設けている。個人面談を実施する。現状の把握、働きやすい職場環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の採用時研修、経験年数に伴った各種研修を定期的実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他のグループホームと交流を持つことによって多くを学ぶ。その知識をサービス向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご自宅に伺い面談を行う。直接ホームに見学に来ていただく事により安心して預けていただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族から利用者様の生活歴、要望を伺う。話し合いを重ねることにより、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面談でその時に必要な事を考える。家族に提案して理解を得た上でよりよい対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と会話をするなかで希望、要望を察知する。日々の生活で取りいれ穏やかに暮らしていただけるように支援していく。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	3ヶ月に一度、家族を迎えてカンファレンスを実施する。スタッフ家族間で話し合いお互い協力し合うことにより本人を支えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室に家族の写真を置く。馴染みの物を居室に揃えることにより安心して生活していただく。ご家族の協力のもと馴染みの方に会えるよう支援している。	入居前にアセスメントを行い生活歴の把握をするように努めている。なじみのものを持ってきてもらうように家族にお願いしている。知人や家族の訪問時には、居室でお茶を出してゆっくりしてもらう。なじみの美容室に通う利用者もいる。昔の歌や映画のDVDなどを鑑賞する時間を作るように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しがちな利用者様にはスタッフが近づいて話を伺う。利用者様全員が楽しめるようなレクリエーションを企画して楽しんでいただく。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの希望があれば、関係を継続していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	モニタリングで聞き取った事、思いや気持ちがうまく表現できない場合、こちらが汲みとり家族に相談してから対応する。	居室担当制にしており、入居後は日々の暮らしの中で思いや意向の聞き取りを行っている。情報は記録に残し、職員間でカンファレンスの際に共有している。聞き取りが困難な場合は態度や表情で汲み取るほか、生活歴から検討したり、家族に相談することもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族とのカンファレンス、利用者様と直接話す事により、本人の要望を理解する。それに応えられるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の行動、言動の記録。会議で情報の共有をすることにより、その人に合った生活が出来るように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、職員を交えたカンファレンスを行う。話し合ったことを介護計画にまとめ、ご本人、ご家族、職員で共有、実践している。	職員は毎月のカンファレンスで課題を共有している。介護計画更新の際の担当者会議に家族が出席し、意見を述べている。医療関係者から「診療情報提供書」を受け取り、医療の情報も加味し計画を作る。定期的にモニタリングを行い、必要な時に計画の変更を行う。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、管理日誌、連絡ノートを活用する。気づいた事をスタッフ間で共有、介護計画につなげている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	素早くニーズに対応する。その方の暮らしに最善の策を日々、ご家族、職員で話し合いご協力いただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々、ケアプラザ等の協力を得る。利用者様の生活に幅ができるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時、ご家族の希望によりかかりつけ医を選んで頂く。その方に合った健康管理を支援している。	ほとんどの利用者は2つの提携医療機関から主治医を選んでいる。専門医は原則家族対応で受診している。やむを得ない場合はタクシーを利用し、職員が付き添う事もある。訪問看護は毎週来訪があるほか、24時間電話での対応が可能である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護をしている。情報を共有して病気の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーの用意をする。病院に情報の提供をする。家族に状況を聞きながら早期退院を目指す。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化した場合の説明を行う。早い段階から、家族と連絡を取り合い、今後の対応を共に考える。	入居前に「重度化した場合における対応に係る指針」で説明し同意をもらう。看取りとなった場合は、改めて同意書をもらうことにしている。看取りを望む場合は医師、管理者、家族で十分な話し合いを行い、できることは行いたいと考えている。看取りの事例はまだない。	開設以来12年も経ち、看取りの必要性も考えられることから、職員の不安を取り除くためにも終末期対応等の研修を行うことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを理解する。対応が適切にできるように会議にて勉強会等、実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年二回実施している。地域の方々の協力をお願いしている。	年2回の消防訓練を計画している。7月の運営推進会議後に町内会役員と共に昼間の火災を想定して訓練を行った。11月には夜間想定での訓練を行う予定である。備蓄も法人の協力を得て新しくそろえ、リスト化して管理をしている。	夜間対応の訓練実施を行うと共に、災害の種類ごとに実際に即した防災計画書の作成を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合った言葉の掛け方、自尊心を傷つけないように配慮している。	理念にあるように「人格の尊重」を大切に考え、言葉遣いには細心の注意を払っている。法人は職員に対し毎年コンプライアンスのテストを行いプライバシーの保護に徹している。書類はカギのかかる書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現がしやすい環境を作る。本人の希望が実現できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせる。スタッフが個々によって対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容、買い物などに参加することによっておしゃれを楽しんでいただく。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居前の面談で好みを伺う。出来る事はスタッフと一緒に手伝っていただく。	献立付きの食材配達を外部に委託し、職員が調理している。クリスマスなどの行事食は職員が献立を考え、買い物を行う。利用者の好みに応じた出前を取ることもある。調査時には職員は同じテーブルにつき、介助や食事を共にしていた。利用者が下膳や洗い物を手伝う場面もあった。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	往診医と連携を図る。適切な水分量、食事量を摂って頂く。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア、口腔体操を行っている。口腔ケアが自力にて困難な方の介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	意思表示の難しい方には時間を決めてトイレ誘導している。トイレでの排泄を促し、自立支援に向けた支援を行っている。	各フロア3か所にトイレがある。うち2つは車いす対応で大きなトイレである。日中はトイレでの排泄を支援している。羞恥心に配慮し、さりげない声掛けで他の利用者に気づかれないようにトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	往診医、訪問看護師と連携を図り、水分量、便秘の確認。マッサージ服薬調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴剤や柚子湯など季節に合わせて、入浴を楽しんでいただいている。	週に2回以上の入浴を心掛けている。職員と話し合い、できるだけ午前中に入浴ができるよう声掛けを行っている。入浴剤を使用したり、ゆず湯、しょうぶ湯などの行事湯を行っている。入浴を好まない利用者が多いため、タイミングをみて声掛けを行う等の工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、良眠していただけるように照明や人の動き話す声の大きさなど配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を受け取る際、薬剤師からの説明、アドバイスの確認を行っている。経過観察も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節のレクリエーションの企画を行う。皆様に参加していただき楽しんでいただく。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との外出。スタッフとの外出など本人の希望に合った支援を行っている。	天気の良い日は個別に散歩に出かけている。歩いて行ける公園で行われる町内の行事や花見には利用者全員で参加している。利用者全員で近隣の別法人のグループホームに訪問し、行事を楽しんだ。散歩に行けないときはベランダや玄関での外気浴をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	夏祭り、買い物時はお小遣いを持参して、本人の希望があったものを購入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の方には手紙、電話で連絡を取り合っている。続けられるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く暮らして頂く為に、清潔の保持に努める。気温を一定に保つ。明るい雰囲気を提供する。	居間は日当たりがよく、カーテンで日差しを調節している。壁の飾り付けは季節感を大切に行っている。居間の中央にある畳部屋は洗濯物をたたむ時に利用している。庭に家庭菜園を作り、トマトやキュウリ、インゲンの収穫を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者様同士でおしゃべりを楽しんでいただく。さみしい気持ちにならないように、常に一人一人の利用者様とコミュニケーションを図っていく。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを居室に置く、生活習慣を大切にする。	エアコン、照明、カーテン、クロゼット以外は持ち込みである。利用者はベッド、テレビ、ラジオ、椅子、テーブル、タンス、ぬいぐるみ、人形、写真など、なじみのものを置き、居室をしつらえている。配置は家族に任せている。換気に気を配り、掃除は居室担当が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ADLの経過観察を行う。自立支援を大切にして、出来ることはやっけていただく。困難な場合は介助を行う。		

事業所名	ニチイケアセンター横浜鶴ヶ峰
ユニット名	福寿

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様を人生の先輩として尊重する。信頼関係を構築し、優しさと思いやりの気持ちを込めて支援することにより質の高い介護サービスを提供いたします。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加させていただく。消防訓練の時には近隣の方々に協力をいただいております。近隣のグループホームとの交流もあります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケアプラザに行事に参加させていただけるようお願いしています。支援について理解と協力していただけるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を実施しています。利用者様、ご家族、地域の方々に参加していただき、皆様の意見をサービスに反映しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて市町村の方に参加いただいております。定期的にホームに来訪されて協力関係を築いております。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のない職場作り等のポスターの掲示をしています。指示内容をスタッフが理解し、会議等で自分達のケアを振り返っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様に対するケアの確認、情報の共有、意見を出し合うことで虐待防止に努めております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所にて研修を行い、権利擁護についての理解を深める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には家族と一つ一つ確認しながら納得がいくまで十分に話し合い同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人が実施している家族向けのアンケートを参考にする。意見、感想を参考にして運営に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を定期的に行っている。個々のスタッフの意見を聞き、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内にキャリアアップの制度があり、昇給の機会を設けている。個人面談を実施する。現状の把握、働きやすい職場環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の採用時研修、経験年数に伴った各種研修を定期的実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他のグループホームと交流を持つことによって多くを学ぶ。その知識をサービス向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご自宅に伺い面談を行う。直接ホームに見学に来ていただく事により安心して預けていただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族から利用者様の生活歴、要望を伺う。話し合いを重ねることにより、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の面談でその時に必要な事を考える。家族に提案して理解を得た上でよりよい対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と会話をするなかで希望、要望を察知する。日々の生活で取り入れ穏やかに暮らしていただけるように支援していく。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	3ヶ月に一度、家族を迎えてカンファレンスを実施する。スタッフ家族間で話し合いお互い協力し合うことにより本人を支えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室に家族の写真を置く。馴染みの物を居室に揃えることにより安心して生活していただく。ご家族の協力のもと馴染みの方に会えるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しがちな利用者様にはスタッフが近づいて話を伺う。利用者様全員が楽しめるようなレクリエーションを企画して楽しんでいただく。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの希望があれば、関係を継続していく。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	モニタリングで聞き取った事、思いや気持ちがうまく表現できない場合、こちらが汲みとり家族に相談してから対応する。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族とのカンファレンス、利用者様と直接話す事により、本人の要望を理解する。それに応えられるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の行動、言動の記録。会議で情報の共有をすることにより、その人に合った生活が出来るように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、職員を交えたカンファレンスを行う。話し合ったことを介護計画にまとめ、ご本人、ご家族、職員で共有、実践している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、管理日誌、連絡ノートを活用する。気づいた事をスタッフ間で共有、介護計画につなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	素早くニーズに対応する。その方の暮らしに最善の策を日々、ご家族、職員で話し合いご協力いただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々、ケアプラザ等の協力を得る。利用者様の生活に幅ができるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時、ご家族の希望によりかかりつけ医を選んで頂く。その方に合った健康管理を支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護をしている。情報を共有して病気の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーの用意をする。病院に情報の提供をする。家族に状況を聞きながら早期退院を目指す。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化した場合の説明を行う。早い段階から、家族と連絡を取り合い、今後の対応を共に考える。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを理解する。対応が適切にできるように会議にて勉強会等、実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年二回実施している。地域の方々の協力をお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合った言葉の掛け方、自尊心を傷つけないように配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現がしやすい環境を作る。本人の希望が実現できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせる。スタッフが個々によって対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容、買い物などに参加することによっておしゃれを楽しんでいただく。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居前の面談で好みを伺う。出来る事はスタッフと一緒に手伝っていただく。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	往診医と連携を図る。適切な水分量、食事量を摂って頂く。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア、口腔体操を行っている。口腔ケアが自力にて困難な方の介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	意思表示の難しい方には時間を決めてトイレ誘導している。トイレでの排泄を促し、自立支援に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	往診医、訪問看護師と連携を図り、水分量、便秘の確認。マッサージ服薬調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴剤や柚子湯など季節に合わせて、入浴を楽しんでいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、良眠していただけるように照明や人の動き話す声の大きさなど配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を受け取る際、薬剤師からの説明、アドバイスの確認を行っている。経過観察も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節のレクリエーションの企画を行う。皆様に参加していただき楽しんでいただく。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との外出。スタッフとの外出など本人の希望に合った支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	夏祭り、買い物時はお小遣いを持参して、本人の希望があったものを購入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の方には手紙、電話で連絡を取り合っている。続けられるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く暮らして頂く為に、清潔の保持に努める。気温を一定に保つ。明るい雰囲気を提供する。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者様同士でおしゃべりを楽しんでいただく。さみしい気持ちにならないように、常に一人一人の利用者様とコミュニケーションを図っていく。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを居室に置く、生活習慣を大切にする。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ADLの経過観察を行う。自立支援を大切にして、出来ることはやっていただく。困難な場合は介助を行う。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ニチイケアセンター横浜  
鶴ヶ峰

作成日 29年 2月 11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	開設以来12年も経ち、看取りの必要性も考えられることから、職員の不安を取り除くためにも終末期対応等の研修を行うことを期待します	終末期対応の看取りについて研修を行う。	来年度の研修計画に終末期の看取りについての研修を取り入れる。	平成29年12月31日
2	35	夜間対応の訓練実施を行うと共に、災害の種類ごとに実際に即した防災計画の作成を期待します	防災計画の見直し	災害の種類ごとに防災計画を見直す。役割、配置、担当者を決める。	平成29年12月31日
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。